

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

本学で過ごした日々、多くのことを学んで本日、晴れて卒業という節目を迎えるされました。その努力と結果に改めて敬意を表したいと思います。

特に今年は、コロナウイルス感染症対策ということでなかなか厳しい社会情勢、学びの時間だったと思います。それは私たち人類が経験したことのない命の危険に向かい合うことでした。当たり前が当たり前ではないということに気づかされ、行動様式を変え自分や自分の身の回りにいる方々の健康により深く思いを持った生活だったと思います。

もちろん、これは大変厳しく辛い時間、期間だったかもしれません。しかし、私たちは明日への希望や夢を持つことができるのです。

今日、皆さんに本学での学びを終えた証として学位記をお渡しました。嬉しさとともにこれから進む未来について夢を持ち、責任を感じていると思います。卒業を機会に、この短期大学部で学んだ意味を是非考えてもらいたいと思います。

みなさんが身につけた専門性によって力を示してほしい。例えば、新型コロナウイルス感染症は社会免疫ができるまで、まだ時間が必要です。そうとなれば、大切なのは人が持っている免疫力です。これは日常の食生活が大きくかかわっています。さらに基礎疾患の一部といわれる生活習慣病との合併症は命の危険をもたらすということが言われています。

これら課題への解決策のひとつが本学の実践栄養学です。「健康でいること」「病気にならないこと」「病気になつても生活の質を保つこと」「一人ひとりがその人らしく生きること」ができる栄養学であるということを皆さんにお話ししてきました。その学びを活かして専門性を持った人材となり、あなたしかできない仕事をするために巣立つていいってほしいと願っています。

毎年の学位記授与式は東日本大震災のことを思い出しています。つい先日も大きな地震があり、さらなる警戒、対応が必要です。当時、本学も残念ながらこの式の実施を見送らざるを得なかつたことを思い出します。あの時、また多くの災害などで生きたくても生きられなかつた多くの命を思い、日々精進しなければなりません。今年は東日本大震災から十年を迎えます。

そして被害から立ち上がりうる多くの方が様々な努力をされています。そういう方々にもコロナウイルスに対峙している方々にも心からのお見舞いとエールと送りたい。皆さんにも是非とも力を貸してもらいたいと思います。

ご家族のみなさま、本日はコロナウイルス対応でご出席いただくことができず申し訳ありません。

そして本学園の教育・研究活動にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。そして、今まで様々な面で卒業生の皆さんを支えていただいたことに重ねて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

今日から新たな毎日が始まります。変化の激しい時代が続きます。食についても新しい考え方、行動様式も生まれてきます。その流れに合わせた生き方も求められます。反対にどれだけ時が経っても変わらないこともあります。それを守ってしていくことで生きていくこともできます。

大切な事は、苦しいとき、楽しいとき、自分を見失わぬこと、周囲の方々と力を合わせ、感謝をすること、自分が女子栄養大学短期大学部で学んだことに誇りと自信を持ち「成し遂げるために最大限の努力をする」心で進んでもらいたいと願っています。

今もこれからも健康は社会的ステータスです。食べることは一生続きます。みなさんの学んだ様々な「食」はあらゆるもののはじめです。人は食べることで命を育み人生を充実させます。これが本学のモットー「食は生命なり」です。

建学の精神「食により人間の健康の維持・改善を図ることを目指す」みなさんの健康と活躍を心から祈って式辞といたします。

令和3年3月18日

学校法人 香川栄養学園 理事長

女子栄養大学短期大学部 学長

香川明夫